

平成 22 年度 2次評価（基本施策評価）シート

基本施策名	54	地域資源を活かして、他地域と交流する	評価責任者 (基本施策主管課長)	企画課長 増田 基生
-------	----	--------------------	---------------------	---------------

基本施策の現状分析及び意図

基本施策の体系	基本目標	共生・交流
	政策	郷土愛を支える交流のまちづくり
①	市民意識調査結果	<p>②左記結果に対する現状分析・市民との協議結果 市民意識調査によると、本基本施策の必要度(方をいれてほしい)は全体の35%と平均より低く、満足度は全体の65.3%と平均より高いが、そのうち「普通である」と回答した人は62%を占めている。また、本基本施策の生活課題として取り上げている「地域の資源を活かした交流が広がっている」というまちづくりアンケート調査(満足度調査)では、「不満足を持つ人」は65%で、「満足意識を持つ人」の29.4%をかなり上回っている。過去3年間の推移では、「満足」は横ばいであるが、「不満」が若干高まっている。年齢層では「50歳～59歳」で「不満」と答えた人は73.2%が全体を8.2ポイント上回っている。一方、居住地別では、「大山田」と「島ヶ原」で「不満」と答えた人は73.4%、73.3%で全体の65%を上回っている。</p>
③	基本施策の現状と課題	<p>①多くの歴史遺産や歴史文化を持ち、自然の豊かさに恵まれている良さを活かしていく必要がある。 ②歴史街道として、初瀬街道、伊賀街道、大和街道の史跡や遺跡を活かした交流が必要である。 ③松尾芭蕉翁の生誕地、伊賀流忍術発祥の地としての歴史文化風土を活かした交流をすすめ、全国へと発信していくことが必要である。</p>
④	基本施策の意図、今後の展望	<p>城下町、歴史街道、伝統産業、忍術という歴史文化などの地域資源を活かした交流や発信を広げていくには、 ①大津市など芭蕉ゆかりの都市との交流、②広域的な文化振興、③松尾芭蕉翁の生誕の地としての全国発信などを実施する。</p>

⑤基本施策指標の検討・設定

現況の課題、意図、今後の展望のキーワード	考えられる基本施策指標候補	重点化
大津市との交流推進	・びわ湖大津夏まつり江州音頭総おどり参加数 ・にぎわいフェスタ盆踊り大会に大津市民連を招待者数	1
広域的な文化振興	亀山市、甲賀市との広域的な文化振興にかかわるイベント数(カシオペアの会)	2
松尾芭蕉翁の情報発信	奥の細道サミット参加	3

基本施策指標名	単位	過年度実績		評価年度 目標値			ベンチマーク	指標の説明
		H20	H21	H22	H25	H30		
1 参加者数(伊賀市から大津市)	目標	人	35	35	35	35	35	
	実績	人	42	36				
	達成率	%	120.0	102.9				
1 参加者数(大津市から伊賀市)	目標	人	35	35	35	35	35	
	実績	人	33	26				
	達成率	%	94.3	74.3				
2 共催事業実施回数(カシオペアの会)	目標	回	1	1	1	1	1	
	実績	回	1	1				
	達成率	%	100.0	100.0				
3 奥の細道サミット参加	目標	回	1	1	1	1	1	
	実績	回	1	1				
	達成率	%	100.0	100.0				

⑥基本施策構成事務事業の評価

	担当課	ID	事業名	改善余地の有無	事業費(人件費込、単位:千円)			重点化
					H21 決算額	H22 予算額	H23 所要額	
1	企画総務部 企画課	123-1	都市間交流推進事業(大津市との交流)		3,635	3,737	3,735	△
2	企画総務部 企画課	123-2	都市間交流推進事業(カシオペアの会)		1,854	1,858	1,658	
3	企画総務部 企画課	123-3	都市間交流推進事業(関連都市との交流)		796	1,048	1,107	
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
(以下 続紙)								
事業費 合計					6,285	6,643	6,500	

⑦ ⑥以外で、目標達成に必要な事業

事業名	事業主体	事業内容等

⑧ 基本施策の現状分析に基づく改革案の説明

評価視点	評価コメント
1 基本施策指標の分析	①芭蕉翁に縁の深い大津市との交流だが、限られた団体(江州音頭市民連)との交流となっているため、交流を継続するなかで、交流内容等を見直す時期であると思われる。 ②カシオペアの会については、亀山市、かめやま美術館、甲賀市との交流・連携は必要であるが、毎年1回実施している交流事業の有効性や効率性も含め、組織自体のあり方を協議する必要がある。 ③奥の細道サミットへの参加については、伊賀市の文化を広く発信する機会として継続していきたい。
2 事業構成の適当性(手段として最適か?)	交流事業に要する費用を可能な限り削減し、継続して実施できる事業内容や体制づくりについて協議する。
3 役割分担の妥当性	カシオペアの会については、構成市と事務局(かめやま美術館)の役割が明確でない。従って、事業内容も含めて組織・体制のあり方についても平成23年度中に検討を行う。
4 総合評価(今後の展開、事業の見直し等)	平成25年度の目標値には概ね達成できるものであるが、マンネリ化している状況のなかで、再度、交流内容の効果・効率性を検証しつつ費用対効果の視点から検討をしていきたい。